

とよおか



農香だより

No.57
2024.

3



写真：有機農産物を使用した学校給食「市立小野小学校」

- 頑張ってます！農地利用最適化推進活動** 2P
- 福井県へ視察研修（報告）** 3P
- きばっとなる人らあ** 4P
- 伝統農産物・特産農産物の紹介** 5P

八条・豊岡地区
(豊岡地域)



私は、昨年より農地利用最適化推進委員となり、遊休農地の有無の確認、農地のパトロールなどの活動をしています。私が担当しています八条・豊岡地区の遊休農地は他地区に比べ少ない方だと思えます。

私の地元、八条地区は、大きく9つの地区からなり次第に宅地化が進んでいます。現在、八条地区の人口は5266人、世帯数は2268世帯（2022年9月現在）です。10年前の人口は5228人で、世帯数は2062世帯でした。八条地区の人口と世帯数は、ほとんど変化が見られませんが、区ごとに人口を見ていると、九日市上町、九日市下町の2地区が大きく増えています。

農地が宅地になり、住民が増えるのは良いことですが、耕作者にとっては色々と問題も出てきています。
・大型農機搬入のための積載車による通行の妨げ
・大型農機が路上に落とした土



上倉推進委員



西沢農業委員



宅地化が進んでいる八条地区

・農機具のエンジン音（騒音）
などの色々なクレームがあります。

農地は、妙楽寺から九日市上町（鞆団地）までの6地区には非常に少なく、農地の多くは、但馬空港から県道を降りた上佐野地区とその北に隣接した佐野地区に広がっています。

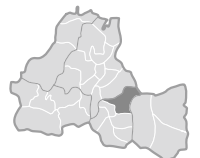
上佐野地区の耕作者は高齢化が非常に目立ってきています。また、佐野地区においては、大規模農家に頼り切りになっており、彼らの存在が生命線となつてしまいました。

私は農地利用最適化推進委員として、今後も佐野地区はもとより八条・豊岡地区の農地を少しでも守るお手伝いができればと思っております。

（八条・豊岡地区推進委員

上倉 貞実）

小野地区
(出石地域)



出石地域の小野地区は平坦農地と中山間農地から成り立っており、水稲が中心になっていますが、近年、若手認定農家の野菜、小麦や蕎麦などの作付けも増えてきました。ただ、山に囲まれていることもありシカ、イノシシなどの獣害が深刻です。

口小野地区は平成30年度に補助を受け、主な農地をワイヤーメッシュ柵で囲いました。シカには有効でしたが、イノシシがすぐ柵を壊し問題になりました。

市役所に相談したところ、ワイヤーメッシュ柵の裾を補強する資材があることがわかり、日役をにかけて、順次補強をしています。これはアンダープロテクトフェンスという製品で、完璧ではありませんが、かなり効果があります。

日役に参加するのは、ほとんどが関係する農家である中、最近少しづつではありますが非農家の人達の協力も得られるようになってきました



中務推進委員



仲川農業委員



防護柵裾部分の補強作業

た。地域全体で農地を守れたらと思います。

ワイヤーメッシュ柵をすることでかなりの農地が守られると思いますが、非常に高価で、補助なしでは難しく、一度補助申請すれば14年間申請できず、新規就農者が新たに柵をしようと思っても難しいのが現状です。多額なお金がかかるのはわかりませんが、もう少し寛大な制度を望みます。

鳥獣害を防ぐことで生産意欲が湧き、農地の荒廃も防げるのではと思っています。

（小野地区推進委員 中務 喜紹）

福井県へ視察研修

若狭町農業委員会 株式会社若狭の恵

農業委員 鳥尾 勝
農業委員 高尾 利美

昨年11月21日・22日に、委員21名の参加により視察研修を行いました。1日目は地域計画を先行的に取組まれている福井県「若狭町農業委員会」との意見交換会、2日目は小浜市のメガファーム「(株)若狭の恵」にて、中山間地域における農業経営モデルの説明と施設見学による研修を受けました。

《若狭町農業委員会との意見交換》
1日目の「若狭町農業委員会」では、今年度から「人・農地プラン」が「地域計画」へと法制化されたのに伴い、課題解決に向け農業委員会が中心となり、108の経営体により主に水稻栽培を1535ヘクタール引き受けるといふ地域計画の策定に取り組まれました。地区内で作成にあたっての課題

や出し手・受け手からの意見を話し合い、区長会を通じて地主等へ知らせました。そうすることで出し手・受け手の方々の意識の変化があり、地区内の担い手を中心となり、農地を耕作することの意識付けや担い手農家の連携に繋がったと説明を受けました。

《株式会社若狭の恵(小浜市)

施設訪問 研修

2日目のメガファーム「(株)若狭の恵」は、地区内6集落にある4つの営農組合を合併・法人化し、平成27年に設立されました。従業員は10名(平均年齢30歳以下)で農地利用集積面積約140ヘクタールに水稻、大麦、その他野菜等の生産・加工を行い、米は直接販売や卸売(インターネットも活用)で販売し「持続可能な農業を目指して」をモットーに活動されています。

施設見学時には、前野恭慶代表

から「お米の管理は栽培だけでなく、乾燥調整・検査・保管・精米・出荷まで全て社内で行い、お客様へは精米したての新鮮な状態でお届けし、最後まで品質に責任を持つことができるのが我が社の誇りです。」と説明を受けました。

また、「環境を守りつつ、農作物の栽培管理を担い、労働環境を整えることで、安心して誇りを持つて働ける農業法人に成長すると



乾燥機



色彩選別機

確信しています。そして、農業をやってみたいと思う若者が増えればこれ以上の喜びはありません。」と熱く話されました。



多数ある大型トラクター

《課題解決に向け共感》

視察先の両者とも、課題としては、農家の高齢化と後継者がいないことや生産効率が悪いこと等々から、今後耕作できなくなる農地が増えることが懸念される中、持続可能な体制づくりと新たな担い手育成が急務とのことでした。

課題解決に向け真剣に地域全体で取り組み、頑張っておられる農家の方を最も大切にされています。また、未来へと引き継がれるように子供達が働きたいと思える農業経営を目指されていることに共感しました。

今回の視察研修を通して、今後の委員活動に向けて、大変有意義なものになったと感じています。

「僕らは農家の応援団！」

有限会社あしたのみなさん
(但東町中山)

人口減少や農業者の高齢化で農地保全が危惧される中、地域の農業と農地を守るべく約20年前に設立された有限会社あした。その名称には旧但東町の3つの地域、あいはし(合橋)、しば(資母)、たかはし(高橋)の頭文字をとり、保全だけではなく「明日に向かって突き進んで行く」という思いが込められています。

当初、農業のプロによる組織でしたが、現在は20から40歳代6名の頼もしい若者が第一線でその重責を担っています。

彼らは霜倉和典社長の下、稲作と直販を中心に、ピーマン、山うど、真っ白で、生でも甘くジューシーなシルクコーン(商標登録済)の栽培、出荷はもちろん、農作業受託、ドローンによるスマート農業などそれぞれの得意分野を生かして、果敢に新たな挑戦もしながら農業経営に取り組んでいます。

また、たんとうチューリップまつりやひまわりまつりの会場づくり、通学路等の除雪など地域貢献にもモチベーションが高く、余念はありません。

若い感性と意欲に満ち、「僕らは農家の応援団！」と力強く語ってくれる彼らに対して、地域の期待はますます膨らんでいます。

(農業委員 早水 博子)



「繁殖和牛の循環型経営を目指して」

山本 洋平さん (出石町上野)



山本さんはトラックの運転手を辞めて、豊岡市認定新規就農者になることを目標に、但東町で但馬牛飼育の大規模経営をされている「森井畜産」(但馬牛 母牛約100頭、子牛約60頭)で畜産のノウハウを学ぶため、精力的に研修されています。

森井畜産では、基本的には6月に種付け、約9ヶ月後の翌年3月に出産、その後9ヶ月間飼育して出荷になるそうです。難しいのは、出産の時期が重ならないように排卵と種付けのタイミングの見極めを行うこと、そして出産です。特に出産は毎回が初産と同じ緊張感で、頭から、足からなど個体により様々な分娩の状態があり、すごく大変だそうです。

「これらの色々なことを学び、経験を重ねることができ、とても有意義な生活となっています。」と話されています。

義父の山本憲一さんは、現在出石町上野で繁殖和牛15頭、子牛7頭を飼育、水稻5.5ha、WCS(稲発酵粗飼料)二毛作11.2haを経営されています。

「今春には義父から経営移譲を受け、目標としては、出石町上野と出身地日高町羽尻の農地を含め、繁殖和牛30頭、水稻10ha、WCS二毛作15haの経営を行いたい。」

また、「農業経営の構想としては、自給飼料生産拡大により安定した畜産経営をし、水稻との複合経営、稲わらの活用(飼料、敷きわら)、堆肥の活用を行っていききたい。」

「家族で力を合わせて地域の農業を守り、循環型の農業経営を目指していきたい。」と話されていました。

(農業委員 井谷 勝彦)

納豆

寺田 正文さん（出石町宮内）

豊岡市出石町宮内の寺田正文さんは、化学肥料に頼らない農業を40年続けて来られました。

22年前に輸入に頼る危機感、そして遺伝子組み換え問題に心を痛めて、安全な栽培を目指し、昔から大切に育てられてきた在来種の大豆栽培を始め、納豆を作っていました。

大豆の品種は、その土地との相性もあり、何度か変更もされてきましたが、10年前から豊岡で守られてきた青大豆（これは本当に名前がないらしく寺田さんは「名もなき青大豆」と呼んでいます。）と京都で作られてきた「オオツル」という白大豆の2種類を作られています。

在来種にこだわるのは、「種はもともと農家の手元にあったもの



納豆は寺田さんの手作り

だから。」と今までの思いを語られます。

大豆はやせ地でも育ち、牛肉に匹敵する高タンパク質で水稲と輪作すると水稲がよく育つという魅力があります。湿害に弱く、何より農薬に頼らず、真夏に除草作業、虫や鳥獣の被害から守るといった大変な苦労があります。

寺田さんの作る納豆は、「寺ちゃん納豆」と言う名前で、地元で愛されてきました。

大粒で弾力のある美味しい納豆です。手作りのため生産量も限られますが、「寺ちゃん納豆」を店頭で見掛けられましたら是非ご賞味ください。

（推進委員 中務 喜紹）



「寺ちゃん納豆」

キクナ（春菊）

中筋地区

豊岡地域の中筋地区において昭和30年代後半から施設栽培が始まり、冬期においても葉物野菜の出荷が可能となり、鍋物の食材としてキクナ（春菊）も栽培されるようになった。

8月下旬に播種、10月上旬に定植、11月上旬から収穫が始まり、11月6日の松葉ガニ漁解禁に合わせて出荷も増え、年末にピークを迎えます。県北においては、収穫の際、4芽を残して主枝の摘み取りから始まり側枝が伸びたらまた摘み取りを繰り返し、3月までに4〜5回の収穫が可能となります。

す。これに対し県南においては、抜き取りが主流で根付きのまま流通しているようです。

鍋の食材としての定番のキクナは、抗酸化作用が強いβ-カロテンが豊富に含まれている緑黄色野菜の一種です。その独特の香りは、α-ピネンやペリラルデヒドという成分によるもので、これらには胃腸の働きを整える効果があり、食欲増進効果・消化促進効果が期待できます。

鍋野菜のイメージが強いキクナですが、採れたてを生そのままサラダにすると美味しいですよ。ツナ缶とマヨネーズの組み合わせもキクナによく合います。

（農業委員 西沢 泰裕）



キクナの施設栽培

令和6年4月から 相続登記申請の義務化が始まります

令和6年4月1日から相続登記の申請が義務化されます。義務化の施行日（4月1日）前に発生した相続についても施行日から3年以内の登記申請が義務付けられています。

相続登記申請の義務化の主な留意点

- 1 義務化の対象者
相続や遺贈により不動産を取得した相続人（施行日より前に不動産を相続して名義変更を行っていない人も含まれます。）
- 2 申請義務の履行期間
相続の開始があったことを知り、かつ、その所有権を取得したことを知った日から3年以内（義務化の施行日前に発生した相続は施行後3年以内）
- 3 相続人申告登記の創設
相続登記の申請義務を簡易に履行できるようにするため、「相続人申告登記」の制度が新たに施行されます。（令和6年4月1日）
- 4 正当な理由がなく登記の申請を怠った場合、10万円以下の過料が科せられることがあります。

※詳しくは法務省のホームページをご覧ください。

農地の売買・贈与・転用等をする場合、農地法の許可が必要です。 農地法等の申請受付日

申請受付は、毎月1日から5日です。
(最終日の5日が休業日の場合は翌開庁日)

| | 申請受付日 |
|----|-------------------|
| 4月 | 1日(月)～5日(金) |
| 5月 | 1日(水)、2日(木)、7日(火) |
| 6月 | 3日(月)～5日(水) |

| | |
|-----|-------------------|
| 7月 | 1日(月)～5日(金) |
| 8月 | 1日(木)、2日(金)、5日(月) |
| 9月 | 2日(月)～5日(木) |
| 10月 | 1日(火)～4日(金)、7日(月) |
| 11月 | 1日(金)、5日(火)、6日(水) |
| 12月 | 2日(月)～5日(木) |

株式会社 西村モータース

本社/豊岡市森 138 番地 TEL:0796-24-0400
香住営業所/ 美方郡香美町香住区若松 558-3 TEL:0796-36-1185

マイカーローン&カーリース (新車に乗るならリースがお得! 頭金0円!! オールメーカーOK!!)
シンプル車検グループ加盟店/ロードサービスカートラブル TEL. 0796-24-0400



農地の賃借料情報

2023年1月から12月までに利用権が設定（公告）された賃貸借（賃借料が有料）における賃借料水準（10aあたり）は、以下のとおりです。

この金額はあくまで参考です。これを目安に土地の広さ、形状、水利等各種条件を考慮し、賃貸借当事者間で賃借料を決めてください。

2024年2月27日 豊岡市農業委員会

■田（水稲）

| 地域名 | 平均額（円/年） | 最高額（円/年） | 最低額（円/年） | 抽出筆数 （賃借料が有料） | 使用貸借筆数 （賃借料が無料） |
|----------|----------|----------|----------|------------------|--------------------|
| 豊岡地域 | 8,300 | 13,400 | 4,000 | 67 | 461 |
| 城崎地域 | — | — | — | — | — |
| 竹野地域 | 6,600 | 13,400 | 6,000 | 12 | 47 |
| 日高地域 | 6,000 | 13,800 | 2,200 | 38 | 154 |
| 出石地域 | 8,600 | 13,400 | 3,000 | 317 | 103 |
| 但東地域 | 1,100 | 2,000 | 1,000 | 8 | 48 |
| （参考）全域平均 | 8,100 | | | 442 | 813 |

【この表の見方】

- 抽出筆数は、標準的な賃借料を算出するため、全賃借料の平均値±70%を超えるものを除いています。
- 賃借料を現物で定めている場合は、60kg当たり13,400円で換算しています。
- 金額は、100円単位に四捨五入しています。
- 参考のために使用貸借（賃借料が無料）の筆数もお知らせします。
- 畑については事例が少ないため算出していません。

節税対策しながら
年金積立！
老後の備えは
国民年金＋農業者年金
老後生活への備えは
十分ですか？

農業者年金のメリット

メリット1

女性に優しい

- 奥様も単独で入れます。
- 女性農業者の長い老後をしっかりとサポートします！
- 女性農業者の老後の安心は自分で確保
- 家族経営協定で保険料の国庫補助も

メリット2

若年層には 手厚い政策支援 （保険料補助）

- 国民年金第1号被保険者等の農業者年金への加入要件に加え、
- 39歳までに加入
 - 農業所得が900万円以下
 - 認定農業者で青色申告者等を満たせば受けられます。

メリット3

税制面で 大きな優遇

- 支払った保険料は全額が社会保険料控除の対象となります。

- 安全で実践的なドローン操縦のトレーニング
- 経験豊富なインストラクターによる徹底的な個別指導
- ドローンの安全運用と法規制に関する包括的なトレーニング
- 国家資格の実地試験に向けた受験準備とサポート
- 越知谷の美しい自然環境での実地訓練



但馬米穀株式会社
TAJIMA BEIKOKU Co., Ltd.



OCHIDANI CAMP
AGRI-VILLAGE
越知谷キャンプアグリビレッジ

DPTAドローン講習所〈越知谷〉
兵庫県神崎郡神河町越知242-1（越知谷キャンプアグリビレッジ）Tel. 0790-38-9989



豊岡市中陰318-3
Tel 0796-22-2131(代)
Fax 0796-24-3987
お気軽にご相談ください♪

表紙について 「有機給食の日」

寒さ厳しい2月8日、「有機の日」に合わせて、豊岡市内の小中学校で「市内産有機野菜」、「無農薬栽培によるコウノトリ育む農法のお米」を使用した学校給食が提供されました。

本市では、農業者、JA、市の連携によって、有機農産物の産地づくりが推進されています。近年、市内の有機野菜生産が盛んになり、有機野菜を学校給食に使用されるようになりました。

出石町の市立小野小学校では、5年生の教室で有機農業者の代表の皆さんと児童12人が一緒に給食を食べました。

昨年の秋は気温が高く、ダイコン、ニンジンが順調に大きくなり、食味は上々、みんな美味しそうに食べていました。

今後ますます「有機野菜」と「無農薬栽培によるコウノトリ育む農法のお米」の生産を推進され、子供たちのために、より安全で健康な「有機給食の日」が増えればいいと思います。

(推進委員 中務 喜紹)



生産者の皆さんと一緒に給食を食べました



有機農産物を使用した給食



全国農業新聞を購読してみませんか!

農業の最新情報を提供

週刊(毎週金曜日発行) 月700円 (送料、消費税込)

*お申し込みは 農業委員会事務局または、地元の農業委員・推進委員 まで

編集後記

このたびの令和6年能登半島地震でお亡くなりになられた方々に、心よりのお悔やみを申し上げますとともに、被災者の皆様にお見舞い申し上げます。また、農地のいち早い復旧・復興を願っております。

本市においても沿岸部に津波警報が出され、高台に避難され怖い思いをされたと聞いております。

北但大震災から99年、阪神淡路大震災から29年、台風23号から20年という節目の時期に差し掛かっております。減災・防災の観点から日頃の備え、予防が大切だと思います。さて、地域計画の策定にあたっては、集落によって事情は様々だと思えますが「地域の将来像」を皆で話し合う良い機会だと受け止め、優良農地を守っていきましょう。

(編集委員長 西沢 泰裕)



農委だより第57号は私たちが担当しました。
後列左から 河本委員、中務委員、桑田委員
井谷委員、辻野委員、鳥尾委員
前列左から 霜澤委員、早水委員、西沢委員
高尾委員、平峰委員、和田委員